

朝六小だより

朝霞市立朝霞第六小学校

児童数 1093名

令和7年7月1日号



教室保管用の上履きを PTA に購入していただきました

校長 こじま たかし 小島 孝之

本校では上履きを忘れると、子供が職員室に来てレンタル用の上履きを貸し出しています。しかし、適したサイズが貸し出し中であつたり、特に月曜日の朝は忘れてしまった子供たちがたくさん来たりと、子供たちも教師もあわただしい様子でした。そこで、PTA に話をして、クラスに2足ずつクロックスタイプの上履きを買っていただけることになりました。簡単に水洗いすることができ、かかともホールドできるため安全に履くことができます。低・中・高学年用にサイズの違うものを購入しました。品物が届いた後は、PTA 会長はじめ執行部の方々が、マジックで約80足分のクラス表示までしていただきました。子供たちに大好評です。ありがとうございました。(購入していただいた、新・上履きです)



価値ある体験の積み重ねが子供たち自らの生き方を考える契機になる

大人であれ子どもであれ、毎日が体験の積み重ねです。そのことは生きている間続いています。

私は、6歳から12歳までの小学生年代で、価値ある体験を積み重ねていってほしいと願っています。価値ある体験とは、教師から「これはこういうことです。覚えておきましょう。」という知識のみの伝達ではなく、「あーでもない、こーでもない。」と自分の考えを相手に伝えていく学習を数多くすることです。それを聞いた相手も、自分の考えを伝えることで、双方向の話し合いが生まれると思っています。もちろん、話し合うには子供が疑問を持たなければならないですし、話し合う必要感がないと形式的な話にしかありません。そこが教師の腕の見せ所だと思っています。

ですから、予定調和的な授業は面白くありません。子供の発言が教師の予想を超えて、教師のイメージした授業展開ができなくなる授業ほど面白いと思っています。子供の発言をどのように拾い、活かしていくのか、強引に教師のルールに乗せることはできないと思っています。「面白い」というのは、子供が真剣に自分の問題として考え、悩み、考えを交流することができる授業だと私は思っています。まさに授業は生き物です。

学校における学習は教科の授業が中心です。しかし、教科以外にも総合的な学習の時間や特別活動などがあり、それぞれの学びの特質を生かして子供たちを育成しています。この特別活動とは、学級活動、児童会活動、クラブ活動、学校行事から構成されており、様々な集団活動を通して、自分の生き方についての考え方を深め、行動に表していくことをねらいとしています。

「集団活動を通して」というのは、個の時代と言われる中でも、特に学校として大切にしている考え方です。子供たちにとって一番身近な学級や学校という社会での生活において、クラス間や他学年の友達との人間関係の築き方や、どうしたら集団に貢献できるのか、もっとよりよい自分になるためにはどうしたらよいのか、といった「大人が社会に出ても学び続ける学習」の基礎を培う場だと思っています。

このような学習は、オンラインではなく、対面でのやり取りで学ぶことの方が圧倒的に深まると感じています。子供たちは毎日、学校生活を送る中で、多様な考え方や感じ方があることを知り、時には葛藤や対立など、様々なことを経験すると思います。こういった経験の中で、解決方法を話し合い、合意形成を図って、決まったことに対して協力して実践したり、具体的に行動に表したりしていきます。

これからも、本校では価値ある体験の積み重ねができるよう粘り強く取り組んでまいります。